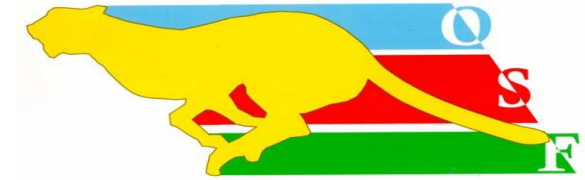


(大証金ファクト・ブック)

証券のための金融、証券による金融



いま大証金は —チャレンジしています—

平成17年11月9日、10日(大阪、東京)

大証金

<http://www.osf.co.jp/>



目 次

1. はじめに

- (1) 会社の特色…………… 1
- (2) 制度信用取引をバックアップする貸借取引…………… 2
- (3) 一般信用取引をバックアップする信用サポートローン…………… 4

2. 平成17年度中間連結決算の概要

- (1) グループの概要…………… 5
- (2) 決算の推移（連結、単体）…………… 6
- (3) 関係会社の決算状況…………… 7

3. 当社の収益動向

- (1) 平成17年度中間決算の特徴…………… 8
- (2) 主要勘定の推移等
 - ①資金運用残高の内訳…………… 9
 - ②利回り、利鞘…………… 10
 - ③利鞘収入…………… 10

- ④主要資産別運用収益…………… 11
- ⑤資金調達残高の内訳…………… 12
- ⑥有価証券貸付料の内訳…………… 13
- ⑦一般管理費の内訳…………… 14
- (3) 平成17年度の見通し…………… 15

4. 経営指標の状況

- (1) 健全性チェックリスト…………… 16
- (2) 収益性関連指標の推移…………… 17

5. 今後の取組み

- (1) 経営目標についての考え方…………… 18
- (2) 株主への利益還元状況…………… 19
- (3) 中期経営計画の実現…………… 20
- (4) 収益力向上のための4つのエンジン…………… 22
- (5) 企業体質の強化…………… 25



1. はじめに

(1) 会社の特色

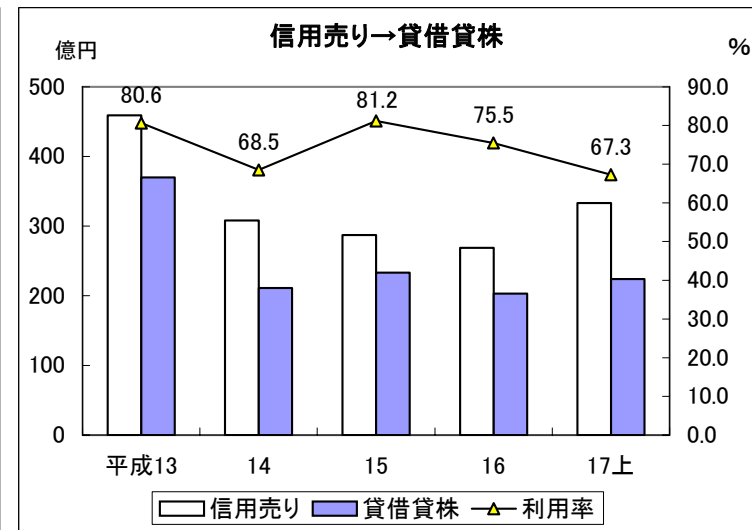
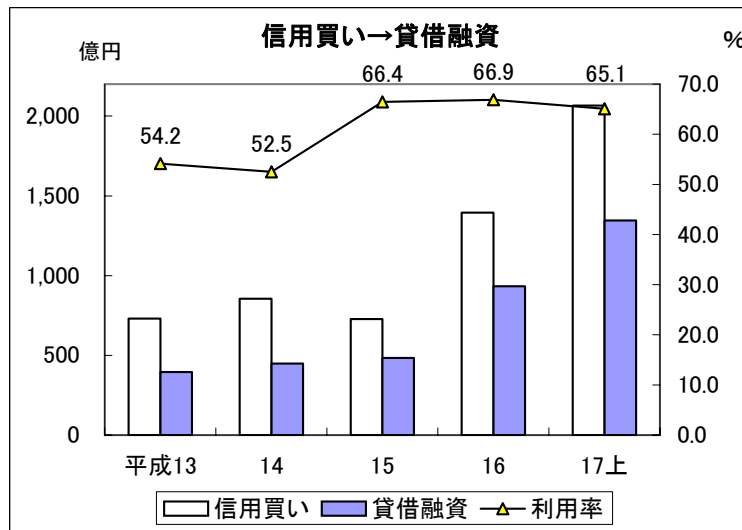
- [役割]
- **証券取引法の免許**を受けた会社で**制度金融（貸借取引）の担い手**
 - 証券関連融資や証券貸借を通して**証券市場の機能発揮をバックアップ**
- [概要]
- **東京（第1部）、大阪（第1部）**の各証券取引所に**上場**
 - 資本金35億円、株主資本257億円で、**自己資本比率は高水準**
 - 店舗は**大阪本店、東京支社、広島支店**
 - 役職員全体で約90名の**少数精鋭**
- [実績]
- 経常利益は、創立以来**50年余黒字を継続**
 - 配当金は、**年6円以上を継続**
 - **格付は上位**
発行体格付けは ^{シングルR&I付ス} **A-** [R&I（格付投資情報センター）]
短期格付けも ^{エイワン} **a-1** [R&I]、^{ジェイワン} **J-1** [JCR（日本格付研究所）]



(2) 制度信用取引をバックアップする貸借取引

- 貸借取引を行える銘柄は、制度信用銘柄のうち一定の条件(売買高、株式数等)に適合する銘柄
- 大阪市場では、制度信用取引の買いの65%、同売りの67%をバックアップ

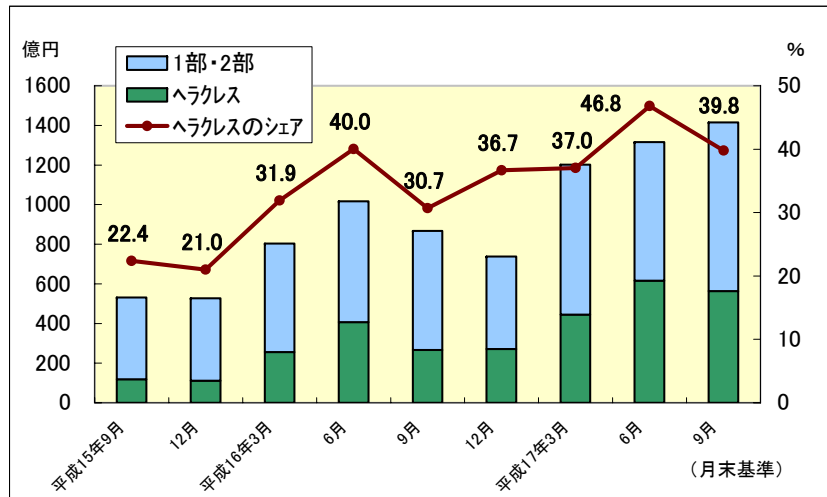
制度信用取引における貸借取引の利用状況(大阪市場)



(注)年度ベース、平残ベース



○ 貸借取引融資残高に占めるヘラクレス銘柄の推移



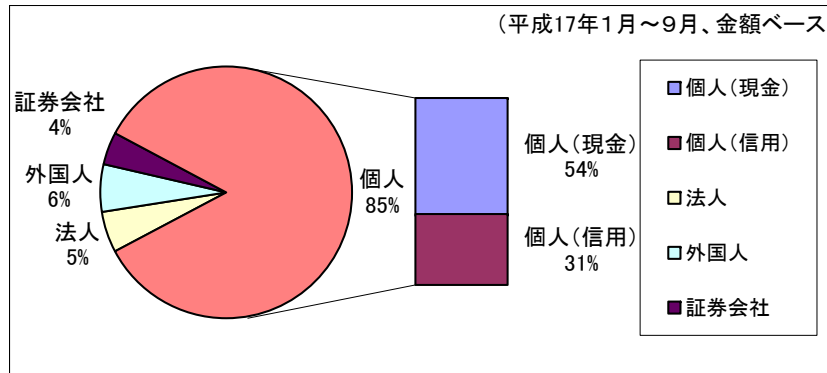
○ 新興企業向け市場の貸借取引利用状況

(平成17年10月末)

	上場銘柄数				貸借融資残高 (百万円)	貸借貸株残高 (百万円)
	内 制度	信用銘柄		貸借融資銘柄		
		貸借銘柄	貸借融資銘柄			
ヘラクレス	125	116	24	92	56,976	509
マザーズ	137	66	18	48	42,272	2,455
ジャスダック	947	347	73	274	88,183	9,240

○ヘラクレス市場の売買参加者の構成

(平成17年1月～9月、金額ベース)

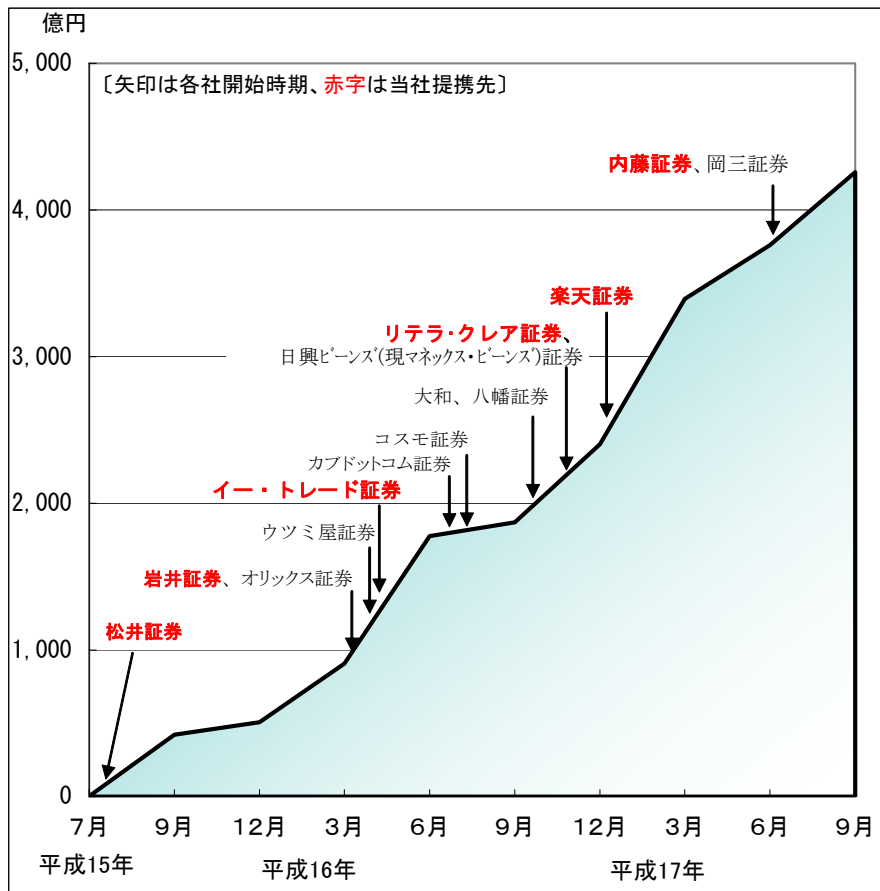


(注) 大阪証券取引所ホームページ資料(投資部門別売買状況)より作成

(注) 大証は、5月26日以降ヘラクレス市場への新規上場申請の受付を停止していましたが、11月1日に再開しました。



(3) 一般信用取引をバックアップする信用サポートローン



- 15年 7月 松井証券開始
- 16年 3月 岩井証券、オリックス証券開始
- 4月 ウツミ屋証券、
イー・トレード証券開始 (※)
- 7月 カブドットコム証券、コスモ証券開始
- 10月 大和証券、八幡証券、
リテラ・クリア証券 (※)、
日興ビーンズ(現マネックス・ビーンズ)証券開始
- 11月 岩井証券と信用サポートローン提携
- 12月 楽天証券開始 (※)
- 17年 6月 内藤証券 (※)、岡三証券開始
- 8月 松井証券と信用サポートローン提携

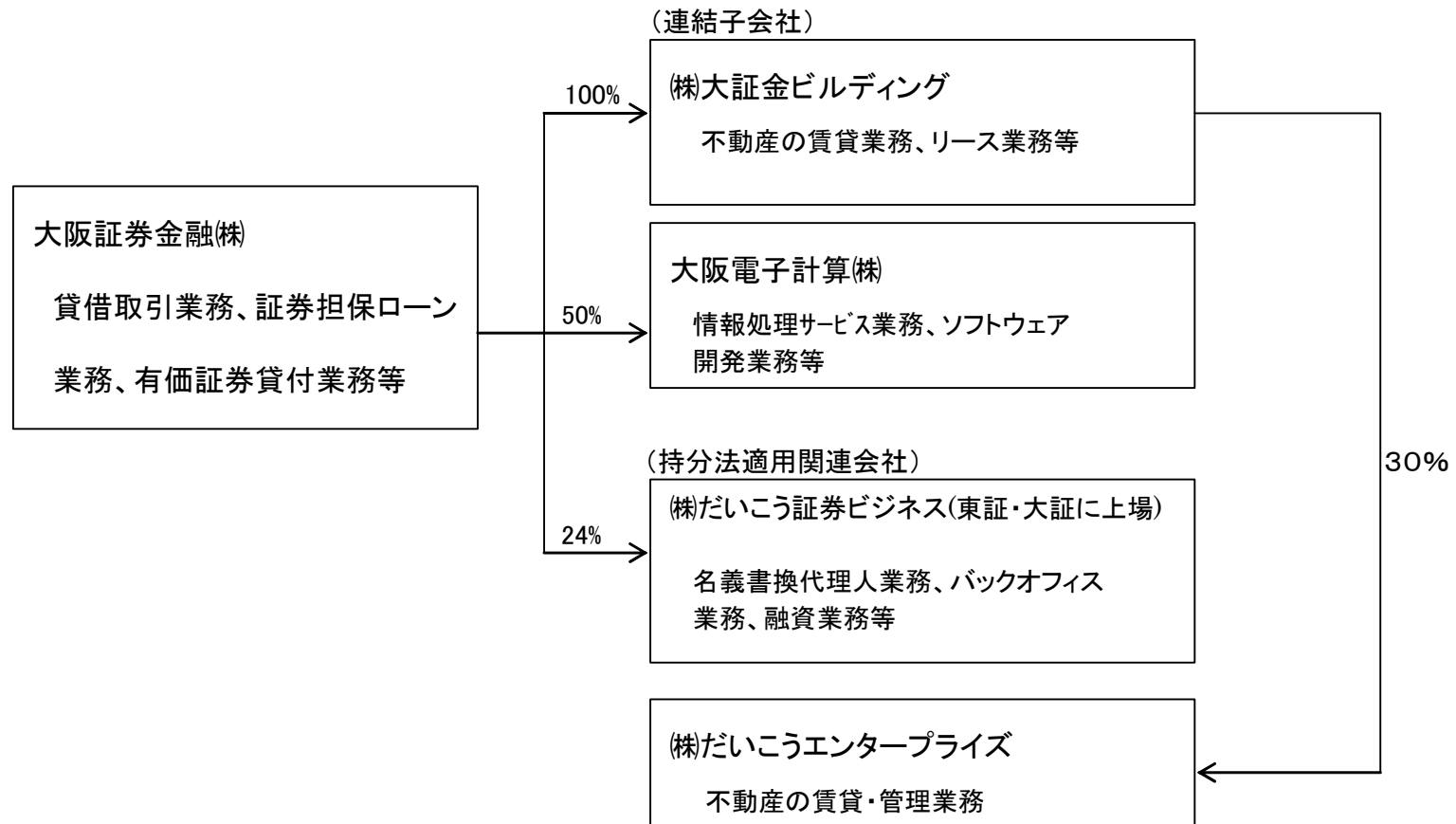
(※印は一般信用取引開始時における
信用サポートローン同時提携先)

※ 16.4.16までは3市場信用買残高、16.4.23以降は3市場信用買残高+JASDAQ信用買残高合計
開始情報は、新聞、各社ホームページ等による。



2. 平成17年度中間連結決算の概要

(1) グループの概要





(2) 決算の推移(連結、単体)－関係会社株式売却の影響(▲1,485)から連結では大幅赤字、その特殊要因を除けば大幅増益

(単位:百万円)

年度	連 結			単 体		
	営業収益	経常利益	当期純利益	営業収益	経常利益	当期純利益
平成 13	9,837	△ 83	△ 14	4,813	138	150
14	6,255	472	△ 527	3,623	479	△ 547
15	7,021	967	586	3,575	649	633
16	6,659	1,317	973	3,611	633	622
16/上	2,927	313	304	1,860	303	302
17/上	3,169	846	△ 801 (684)	2,229	702	1,094 (541)

(注) 金額は単位未満切捨て

関係会社株式売却の
影響を除いた数字



(3) 関係会社の決算状況

(単位：百万円)

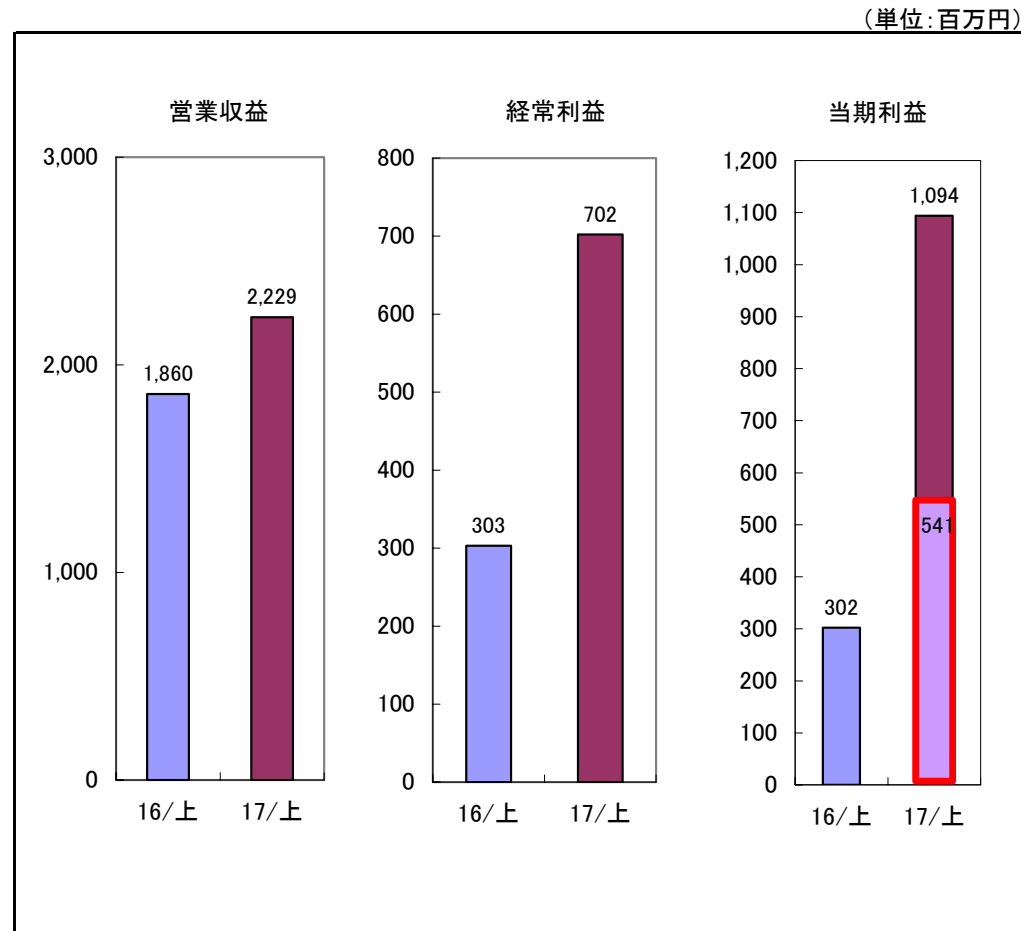
年 度	連 結 子 会 社						持 分 法 適 用 関 連 会 社					
	(株)大証金ビルディング			大阪電子計算(株)			(株)だいこう証券ビジネス			(株)だいこうエンタープライズ		
	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益
平成 13	741	102	59	3,314	333	183	10,520	1,156	191	315	41	24
14	736	94	△89	2,622	129	49	9,854	665	△225	286	27	16
15	715	189	△127	3,606	302	△60	10,139	1,024	206	248	6	4
16	652	153	151	3,316	436	376	11,520	1,217	644	195	8	5
16/上	345	68	101	1,145	△85	△79	5,394	548	315	97	16	10
17/上	267	70	41	1,026	△75	△72	6,275	1,157	723	97	14	12



3. 当社の収益動向—増収増益

(1) 平成17年度中間決算の特徴

- 営業収益 増収 (+19.8%)
- 経常利益 2.3倍
- 当期純利益 3.6倍
(実勢 +79.1%)

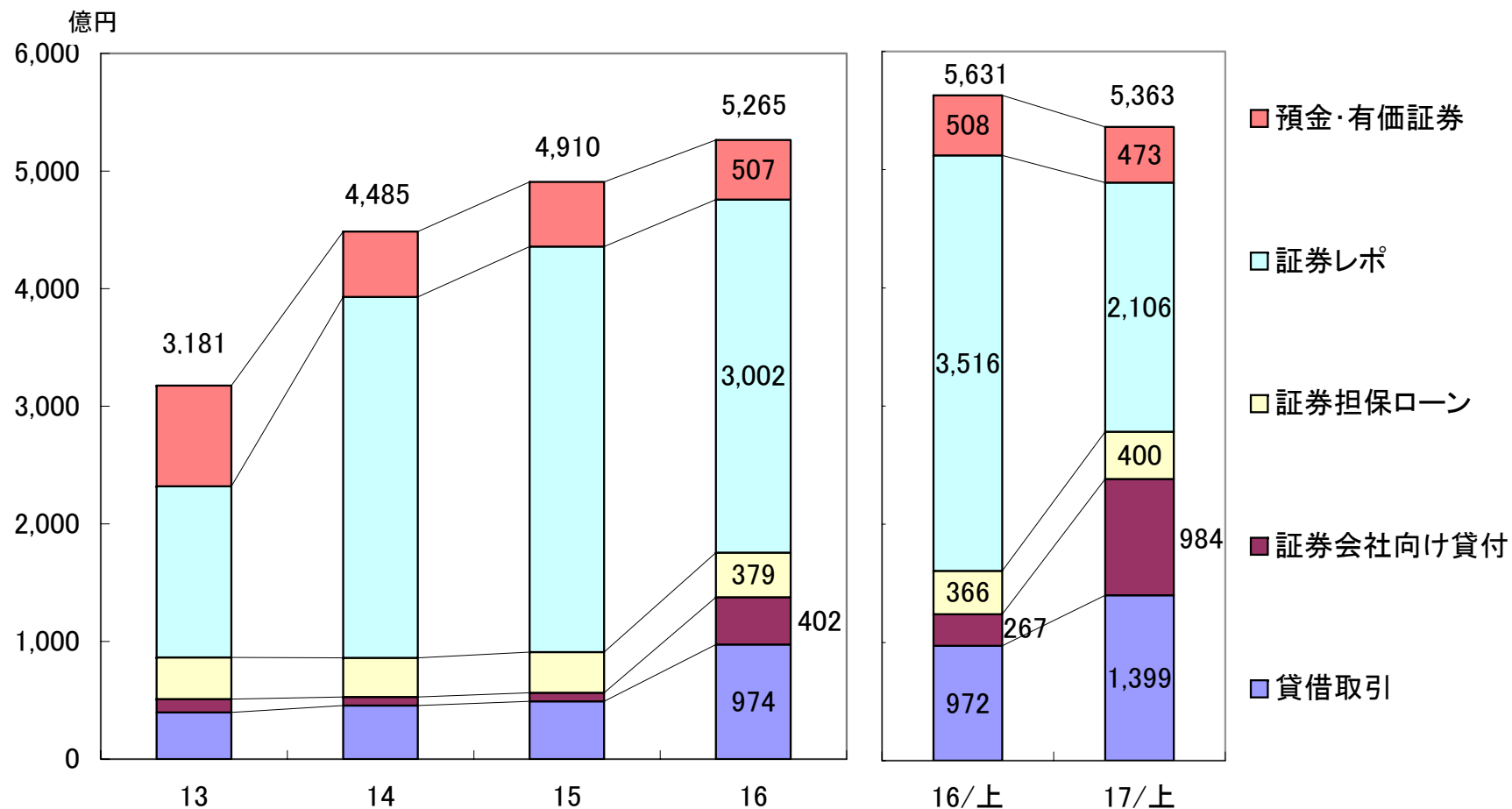


(注) 年度ベース



(2) 主要勘定の推移等

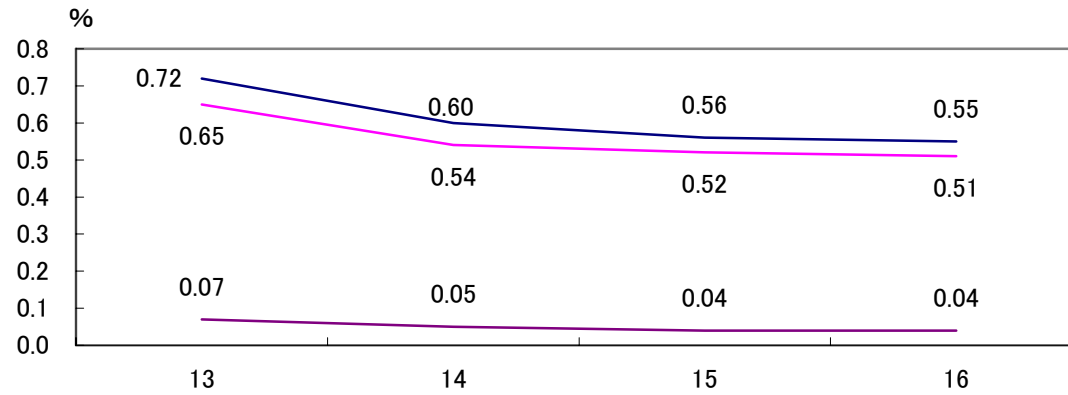
① 資金運用残高の内訳－貸付金は増加したものの、証券レポの減少から全体では減少



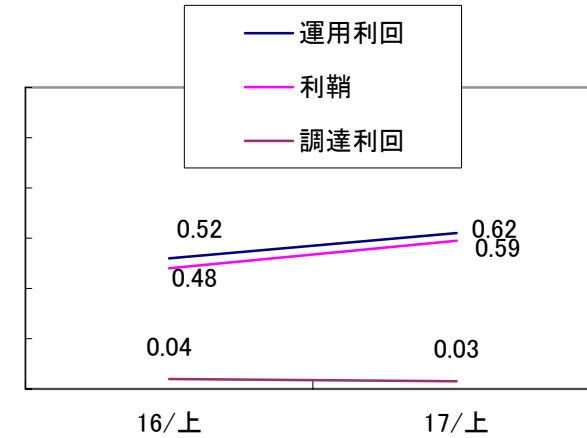
(注) 年度ベース、平残ベース



②利回り、利鞘—上昇、拡大(前上期比)

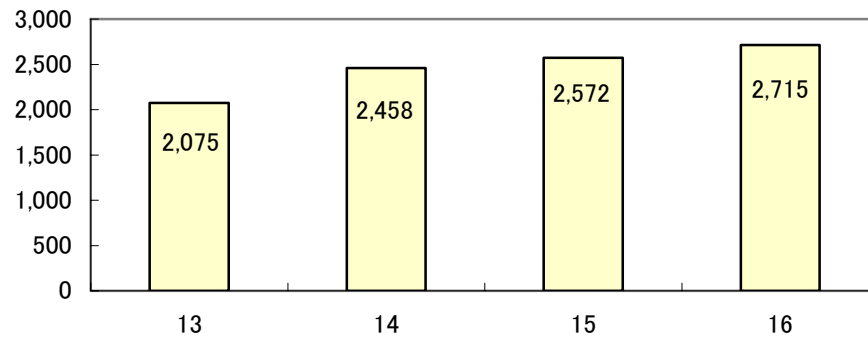


(注)年度ベース

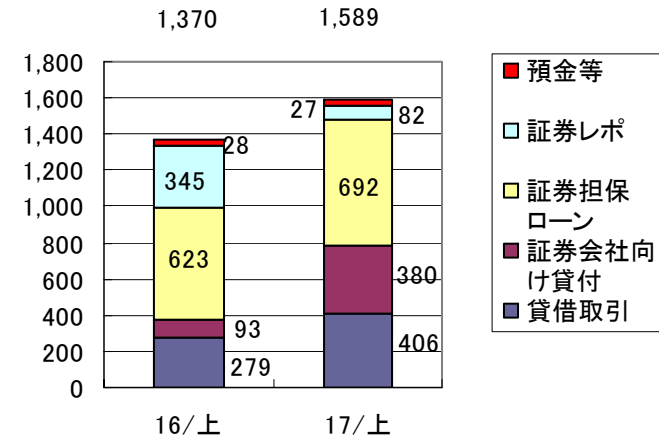


③利鞘収入—増加

(単位:百万円)



(注) 年度ベース





④ 主要資産別運用収益—証券会社向け貸付が大幅増

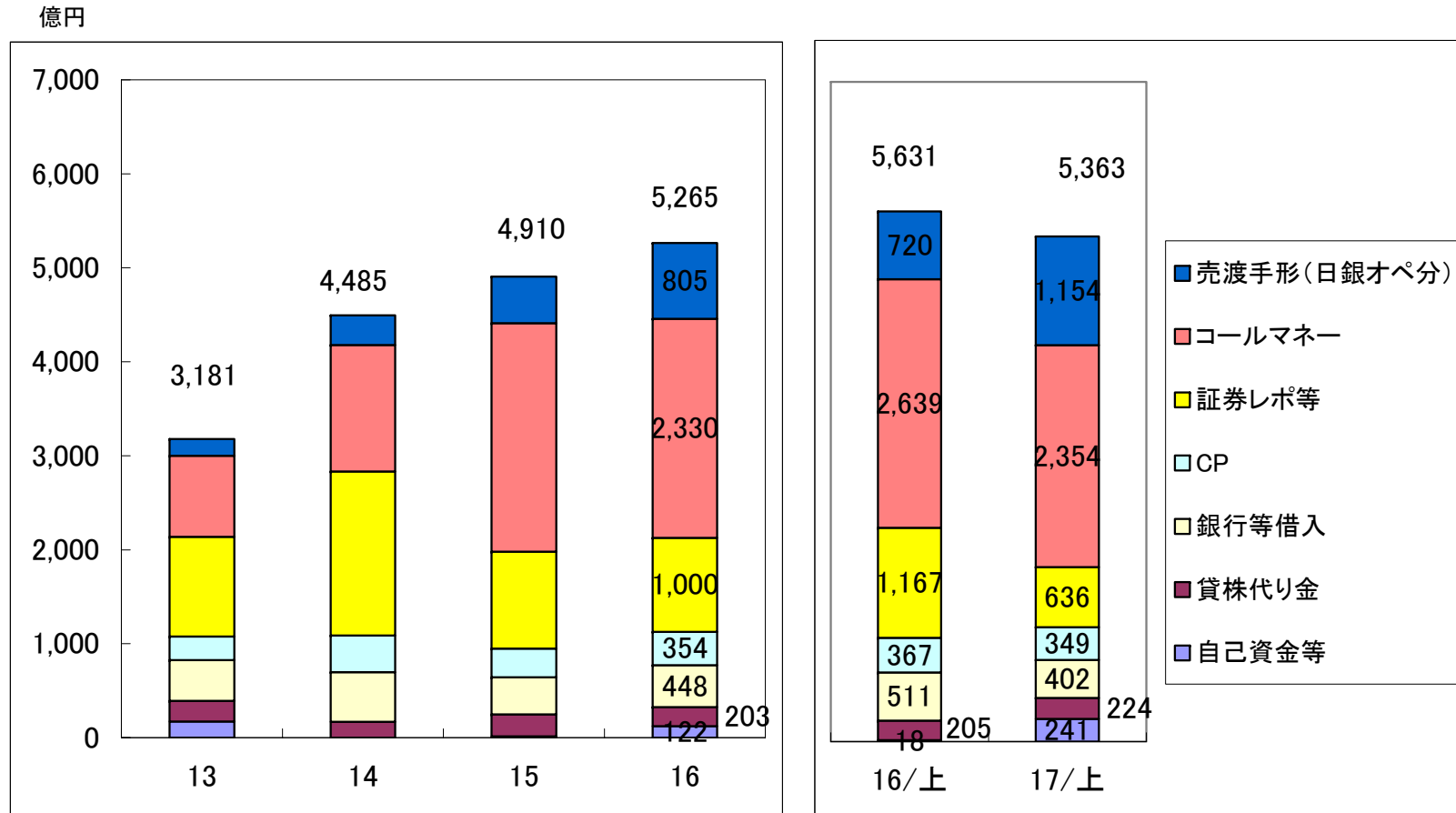
(単位：百万円)

		平成13	14	15	16	16/上	17/上
i	貸借取引	255	277	302	597	299	431
ii	証券会社向け貸付	95	62	48	308	99	397
iii	証券担保ローン	1,192	1,135	1,218	1,306	630	699
iv	証券レポ	507	1,069	1,058	598	391	108
v	預金・有価証券	233	135	111	80	38	36
合計		2,285	2,680	2,740	2,891	1,459	1,673

- (注) 1. 運用収益はグロスベース
2. 年度ベース



⑤資金調達残高の内訳―日銀手形買いオペを積極活用



(注) 年度ベース、平残ベース



⑥有価証券貸付料の内訳—一般貸株が大幅増収

(単位：百万円)

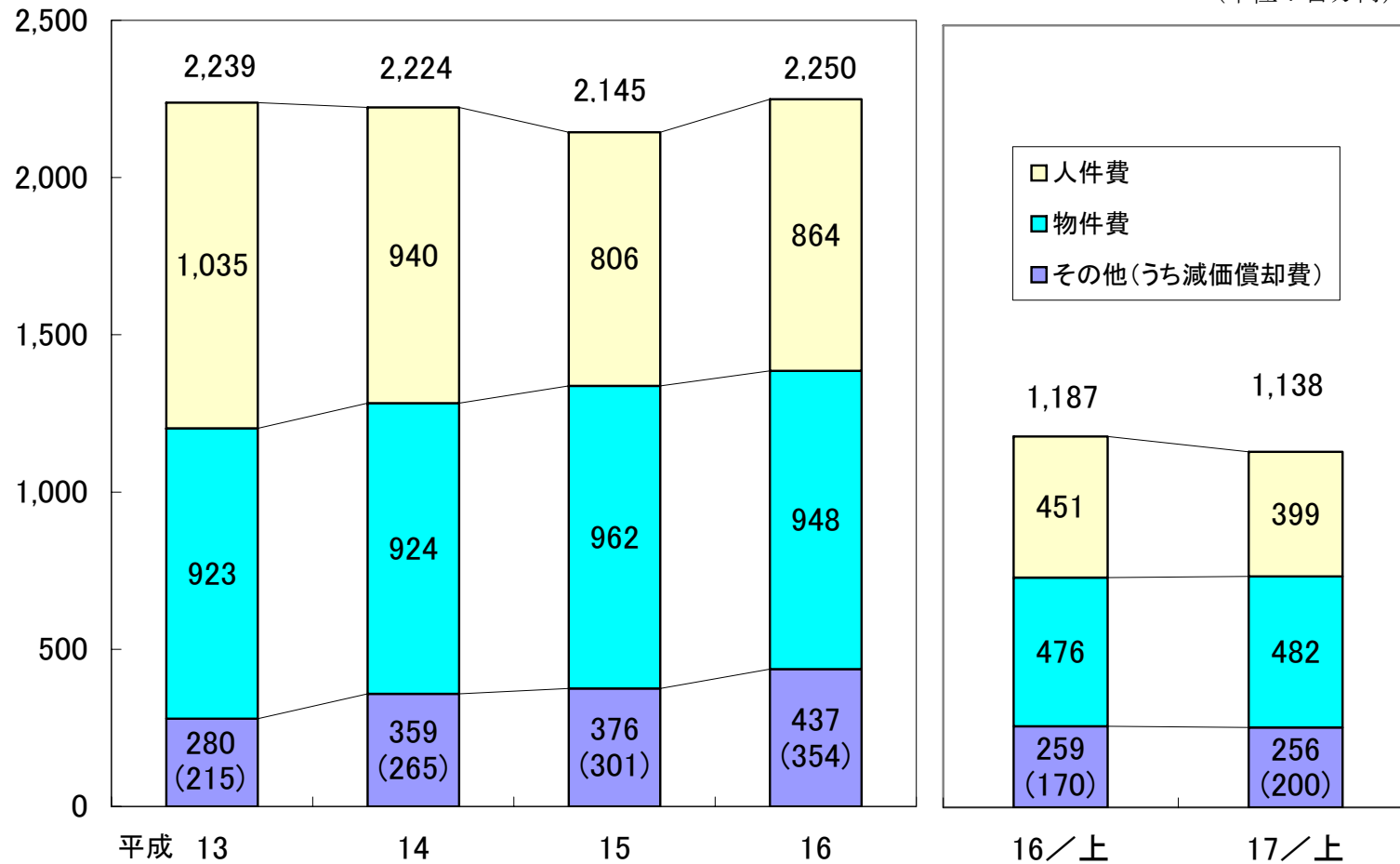
年 度	平成 13	14	15	16	16/上	17/上
貸借取引	127	106	124	89	47	48
(うち貸借取引貸株料)	(—)	(73)	(97)	(85)	(43)	(47)
一般貸株	119	52	73	109	58	147
債券貸借	58	56	47	33	20	17
合 計	305	214	244	232	126	212

(注) ネットベース (貸付料 — 借入料)



⑦一般管理費の内訳—人件費減少

(単位：百万円)



(注) 年度ベース



(3) 平成17年度の見通し

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	平成16年度実績	平成17年度見通し	平成16年度実績	平成17年度見通し
営業収益	6,659	7,700	3,611	4,400
経常利益	1,317	2,100	633	1,300
当期純利益	973	0 (1,480)	622	1,550 (990)

(注)()内は、だいがう証券ビジネス株式売却損益等の影響を除いた実勢数値



4. 経営指標の状況

(1) 健全性チェックリストー高い健全性

(平成17年9月末)

<p>■格付</p> <p>発行体格付け <small>シングルエイマイナス</small> A- [格付投資情報センター(R&I)]</p> <p>短期格付け <small>エイワン</small> a-1 [格付投資情報センター(R&I)]</p> <p><small>ジェイワン</small> J-1 [日本格付研究所(JCR)]</p>	
<p>■自己資本比率</p> <p>(1) 銀行ベース(BIS基準) = 12.9%</p> <p>(2) 証券会社ベース(証券取引法基準) = 1,205.3%</p>	<p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際統一基準行単体ベース平均 12.4% (平成17年3月末現在) ●国内基準行単体ベース平均 9.6% (平成17年3月末現在) <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ●東証取引参加資格証券会社(108社)平均 512.2% (平成17年6月末現在)
<p>■貸出不良債権</p> <p>実質破綻債権、破綻懸念債権、要注意債権合計 0.9億円</p> <p>貸付金総額2,873.5億円に対する割合 0.03%</p>	<p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国銀行(127行)平均 2.8% (平成17年3月末現在) <p>金融庁が発表したリスク管理債権総額のうち破綻先債権と延滞債権の合計を貸出金総額で除して算出</p>



(2) 収益性関連指標の推移—収益性向上

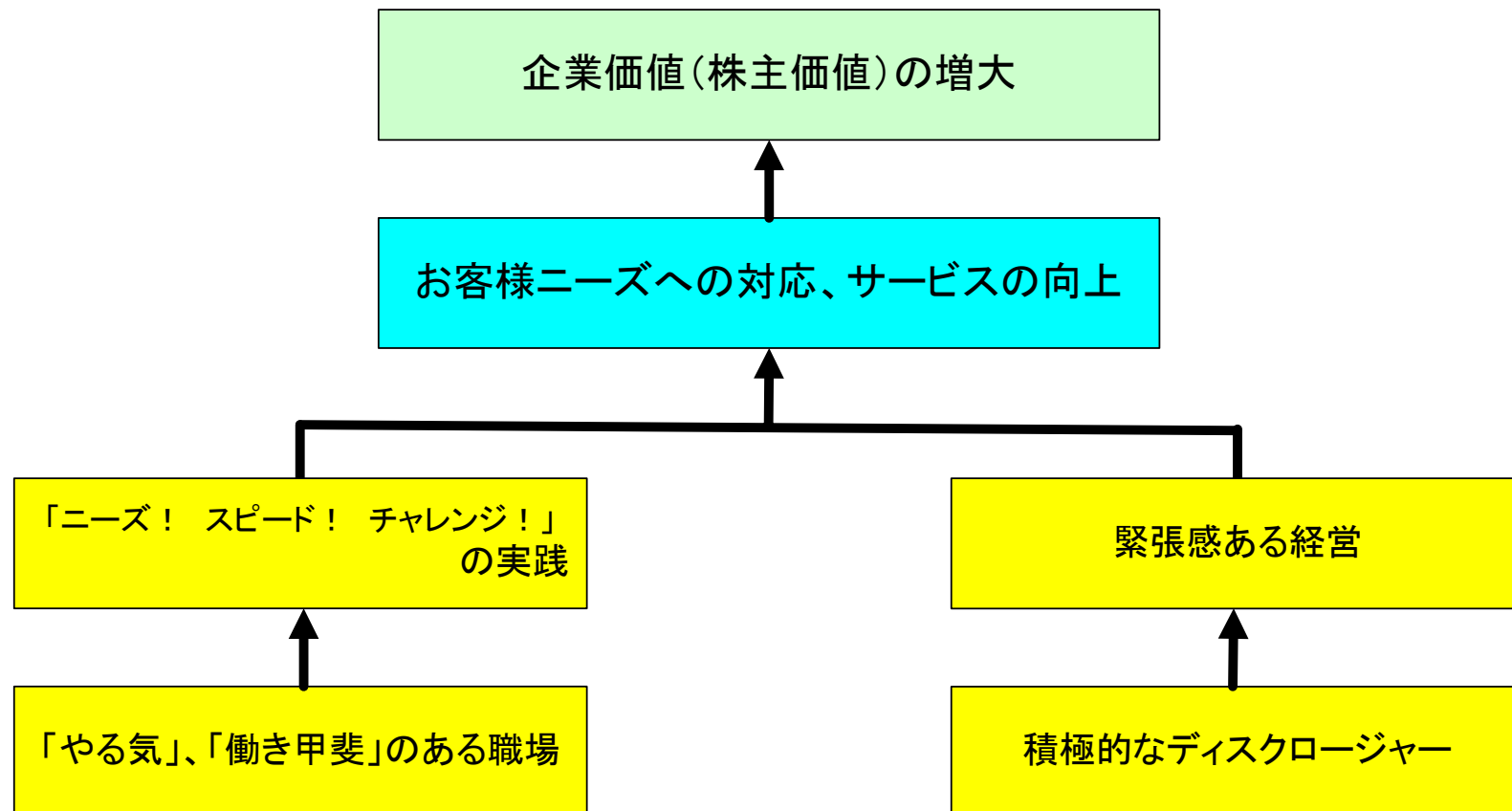
年 度	平成 13	14	15	16	16/上	17/上	17/上実勢
株主資本利益率 (ROE)	(0.6) % △0.0	(△2.3) △1.7	(2.6) 1.8	(2.5) 3.0	(2.5) 1.8	(8.5) △5.0	(4.3) 4.1
株価収益率 (PER)	(50.7) 倍 —	(—) —	(23.3) 25.5	(28.1) 17.6	(19.0) 18.8	(9.6) —	(19.3) 15.0
株価純資産倍率 (PBR)	(0.31) 倍 0.23	(0.31) 0.22	(0.56) 0.42	(0.65) 0.48	(0.47) 0.35	(0.81) 0.63	(0.83) 0.60
1株当たり配当	6.00 円	6.00	6.00	7.00	—	—	—
期末株価	191 円	184	351	420	298	550	550

- (注) 1. () 内は単体ベース
 2. 網掛け部分は、だいこう証券ビジネス株式売却損益等の影響を除いた数値



5 今後の取組み

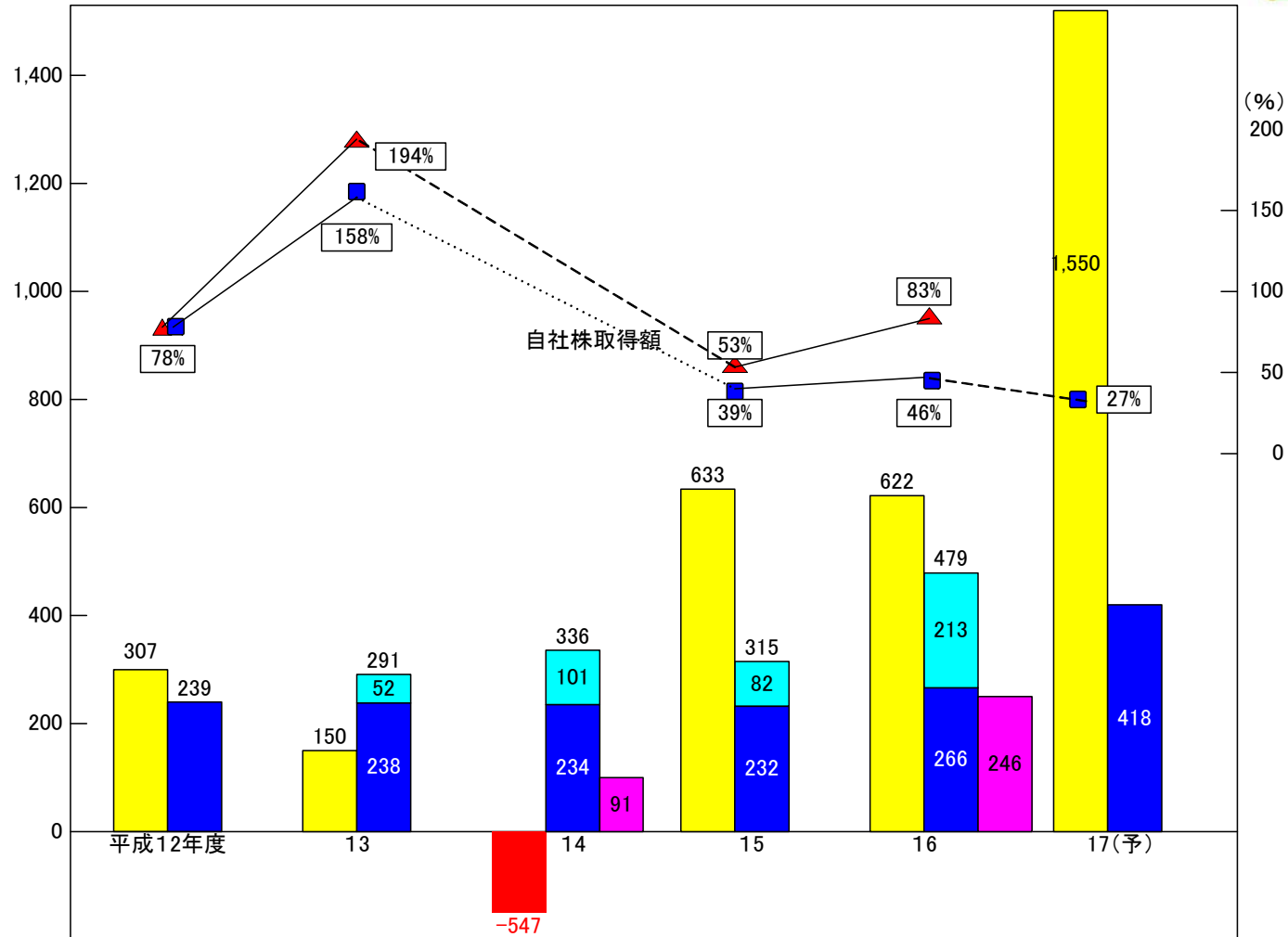
(1) 経営目標についての考え方





(2) 株主への利益還元状況

(百万円) ■ 当期純利益 ■ 配当金 ■ 自社株取得額 ■ 自社株償却額 —■— 配当性向 —▲— 総還元性向



(注) 総還元性向 = (配当金 + 自社株取得額) / 1株当たり当期純利益



(3) 中期経営計画の実現

① 基本認識

使 命	「証券のための金融、証券による金融」を担い、 証券市場の発展に貢献する
目 標	企業の持続的発展を通じ、関係者の期待に応える 株 主：高い収益性の実現 お客様：ニーズへの対応、サービスの向上 従業員：「やる気」に応える職場の提供
行動指針	「ゼロからのスタート」の精神で 「ニーズ！スピード！チャレンジ！」を実践する

② 経営目標

収 益 性	経常利益	平成 19 年度は 17 億円を達成する
	R O E	平成 19 年度は 4 %以上を達成する



③ 利益計画

(単位：億円)

	平成 16 年度実績	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
営業収益	36	41	45	49
経常利益	6	11	14	17
当期純利益	6	7	8	11

④平成 17 年度経営目標

1	経常利益 11 億円を確保し、ROE 3%を達成する
2	リスク管理の徹底、強化を図る
3	企業体質の更なる強化に努める



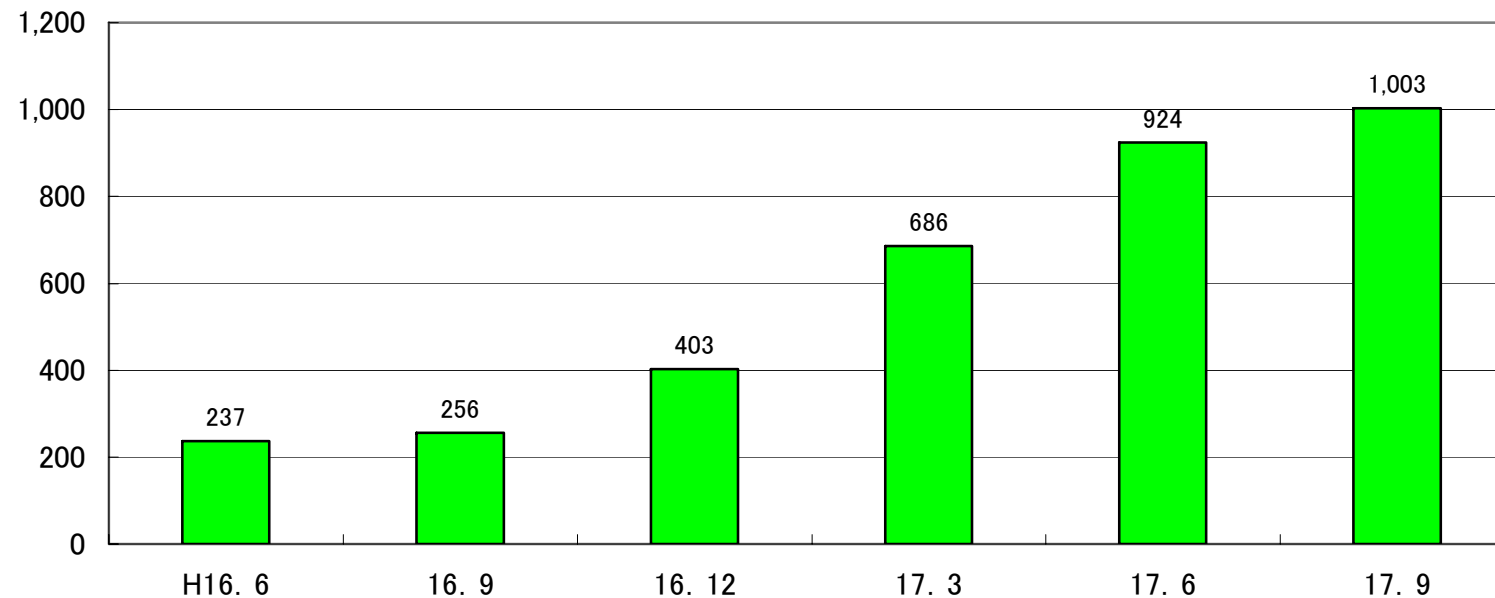
(4) 収益力向上のための4つのエンジン

1 信用サポートローン

- 一般信用取引をサポートする貸付として、平成16年4月から取扱い開始
- 提携先証券会社を順次拡大し、現在6社
(イー・トレード、リテラ・クリア、岩井、楽天、内藤、松井)
- 全国一般信用取引買い残高4,200億円のうち1,000億円をカバー(平成17年9月現在)
- 年度末目標残高 1,000億円

<月末残高推移>

(億円)

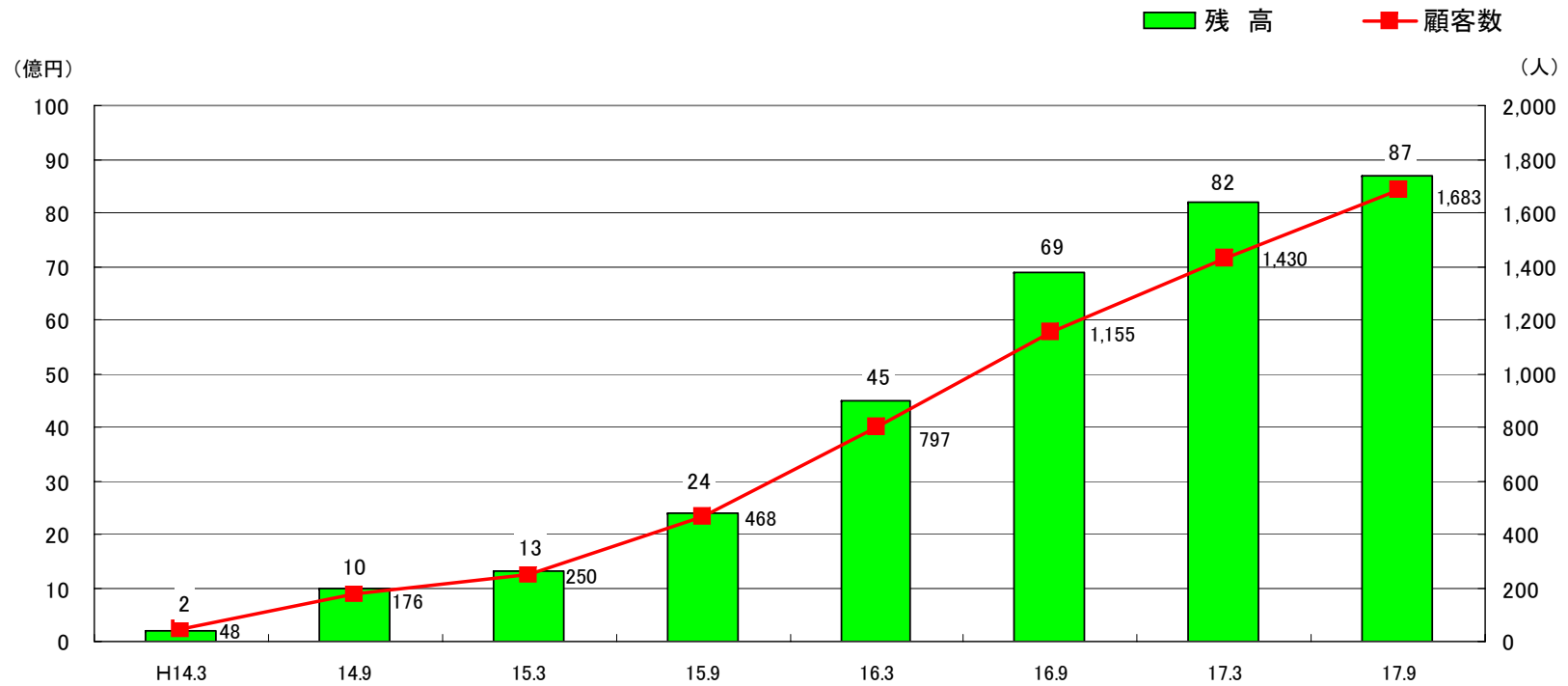




2 コムストックローン

- インターネット、電話・FAX等による非対面型証券担保ローン〔上限3千万円〕
- インターネット取引で15年7月からイー・トレード証券と提携
- 顧客は全国に展開（首都圏：約4割、近畿圏：約3割）
- 年度末目標残高 120億円

<月末残高および顧客数の推移>

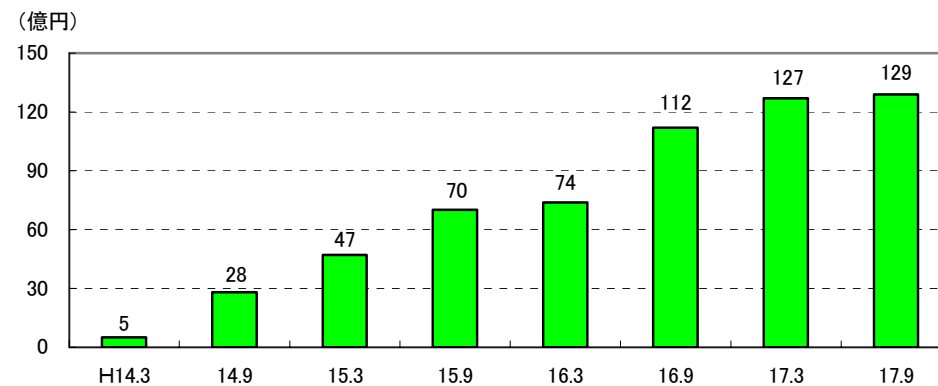




3 ビジネスローン

- 大口〔上限：単一銘柄5億円、複数銘柄10億円〕向け訪問型営業
- 資金用途自由、随時返済
- 上場企業オーナーは自社株担保可
- 銘柄格付による貸出上限額管理
- 年度末目標残高 200億円

<月末残高の推移>



4 株券レポ

- 法人の保有株券等を有効活用して、効率的な資金調達を提案
- 上期運用平均残高は資金ニーズ低迷で1,391億円（前年同期 2,432億円）
- 資金運用先の拡大と取引スキームの多様化を推進
- 下期目標運用平均残高 1,400億円



(5) 企業体質の強化—イメージは『ヒョウ』

「ニーズ!スピード!チャレンジ!」の実践

- 信用サポートローンの提携先証券会社の拡大
- だいこう証券ビジネスとの業務提携の具体化
- 首都圏の機能強化
- プライバシーマークの取得
- 苦情処理体制の整備